

## 北京での日中3か国フォーラム報告

井上順孝

2012年8月31日に北京の国際交流基金北京日本文化センター（SK大廈3階）で、日中米3か国フォーラムがあり、その文化セッションの議長として会議に参加した。このフォーラムは、日中国交40周年記念行事の一つであり、主催は日本企業（中国）研究院、また後援は国際交流基金（Japan foundation）の北京日本文化センターなどであった。

会議は在華日本国大使館特命全権公使の堀之内秀久の挨拶によって始まり、政治セッション、経済セッション、文化セッションの3つのセッションが行われた。私が議長を務めた文化セッションでは、上海日本人学校運営委員会委員長で芝浦工業大学の前理事長である小暮剛一氏が「東アジアにおける国際教育の課題」として発表した。中国からは中国美術館副館長の胡偉氏が、「20世紀以降の中国画と日本画」として発表があった。

コメントに次いでフロアを交えての討論がなされた。文化セッションは残念ながらアメリカからの発表者がおらず、日中のみの発表となった。発表のテーマが美術と教育という異なった分野にまたがったので、やや焦点を絞りにくかった。

また討議のなかで私が宗教文化の問題についてコメントし、それについての意見も出されて議論は多岐にわたった。最後のセッションということもあって、政治セッション、経済セッションにおける議論に関わる意見も出された。

政治・経済と文化とは本来切り離すことができないものであり、こうしたフォーラムで政治・経済・文化の相互の有機的關係につい

て議論する時間ともう少し必要だと感じられた。

翌日、北京市内にあるラマ教の擁和宮と孔子廟を見学した。宗教文化教育の教材とすべく写真撮影等を行った。



擁和宮



孔子廟

なお、この会議出席と調査は科研費基盤研究（B）宗教文化教育の教材に関する総合研究」によるものである。